

別紙「調査結果表」

茨城県畜産センター長 殿

報告者 安江 健

畜種別チェックシートに基づき、飼養管理状況を確認した結果は以下のとおりです。

適

不適

一部不適

(不適、一部不適の場合、改善を要する事項について以下に記載)

- ・採卵鶏（一部試験鶏）に関しては現状を視察できなかったためヒアリングのみであったが、暑熱対策が扇風機の増設しか図れない点以外は、飼育密度や飼育者数、および見廻りの回数などの点で良好な飼育環境であると判断された。
- ・牛（乳用、肉用、育成、子牛）については、部外者（視察者）を極端に恐れたり攻撃をしかける個体はおらず、BCSが極度に低い（もしくは高い）個体もおらず、牛舎全体が静穏に維持されていたことから、日常的な取り扱いや飼育方式は良好であると判断された。ただ、下記に指摘するいくつかは改善が必要と判断されたため、牛の飼育管理状況全体としては「一部不適」と判定した。
- ・肉用牛（供卵牛舎）の牛床が体長に比して短く、後肢が糞尿溝に落ちるために怪我する可能性がある。牛床のサイズを拡張できないのであれば、足を落とさないよう糞尿溝全体をグレーチングで覆うか、採卵予定個体以外は屋外パドックと自由に行き来できるようにした放し飼い方式に変更しても良い。
- ・屋外パドックに日陰が全くないので人工的な日陰をつければ昼間も使用可能に。
- ・搾乳牛（乳牛舎）では、後軀を汚している個体や飛節スコアが3～4の個体が散見された。ストールに対する頭数密度は民間よりもはるかに低いことから、ストールの安楽性や利用性に課題があると思われた。敷料である山砂が圧密化していることから、破碎処理または川砂に変えるなど牛床を柔らかく保つ工夫と、隔柵やネックレールを適正位置に調整してください。（ストール上への送風機設置も有効です）
- ・搾乳室からの戻り通路に設置されている体重計は牛の渋滞を引き起こす（つまり作業者に荒い扱いを引き起こす）可能性があります。現在使用していないとのことなので、撤去、もしくは秤量台をコンパネで覆うなど工夫してください。